

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文科学国際教育研究拠点」
「コンフリクトの人文科学」セミナー 第4回
共催：日本アフリカ学会関西支部例会

「紛争に迫る！ モザンビーク武力紛争の起源を探る 14年を通して考えたこと」

講師：船田クラセンさやか（東京外国語大学外国語学部講師）

要旨：報告者が、モザンビーク武力紛争（1977～92年）の諸要因を学問的に探ろうと思いついたのは1994年のことであった。紛争終結後の地域社会に関わるなかで、従来の紛争理解に疑問を持ったからであった。研究者が訪れることのない反政府ゲリラの拠点に派遣された報告者は、なぜこの残酷な戦争が発生し、しかもこれほどまでに長期化した理由は、従来の学説だけでは十分に理解することができなかった。従来の理解には、何かが欠けている。そう感じながら、この難問にとりつかれたように取り組んできた。

14年をへて、強く感じることは、歴史的アプローチの有効性である。そして、地域社会と国際関係をつなぐ視点の重要性である。発表では、これらの点について、論じる予定である。

講師略歴：専門は国際関係学、アフリカ現代史。とくにモザンビークの武力紛争・平和と歴史について調査研究してきた。国連モザンビーク活動選挙部門オフィサー（UNV）などを経て、2006年に津田塾大学大学院国際関係学研究科後期博士課程修了。現在、東京外国語大学外国語学部講師。現代アフリカの直面する、武力紛争や貧困といった諸問題の歴史的起源を学際的手法から探りつつ、問題の解決にアフリカ・世界・日本・市民が貢献できること、および地域研究と国際関係とのあるべき結節点を検討している。主な業績に、『*The Japanese in Latin America*』（共著、2004）、『モザンビーク解放闘争史 「統一」と「分裂」の起源を求めて』（2007）などがある。

日時 2007年11月16日（金） 17:00～19:00
会場 大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）
東館2階 ユメヌホール（参加無料）

ユメヌホールのある東館は、万博外周道路側の新築の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは <http://www.hus.osaka-u.ac.jp> をご参照下さい。

問い合わせ先：
大阪大学大学院人間科学研究科
人類学研究室
E-mail globalra@hus.osaka-u.ac.jp
電話 06-6879-8085
06-6877-5111（代）

